

事業番号	0	2	8
実施計画事業			
実施計画事業以外の事業	○		

令和元年度 事務事業評価シート

1. 事業の概要

事務事業名	敬老会等運営事業				担当部	健康福祉部					
事業期間	昭和63年度以前 ~ 令和2年度以降				担当課	長寿・障がい福祉課					
新基本計画 (平成26年~平成30年)	基本施策	08	展開方向	1							
予算区分	一般会計	款	03民生費	項	02	目	01	大	05	中	01

2. 実施状況

◆平成30年度実施内容

○敬老会

- 〈開催日〉 平成30年9月12日(水)
- 〈対象者〉 75歳以上の市民(参加者数 3,164人)
- 〈余 興〉 津軽三味線、中国大黄河雑技団
- 〈75歳祝品〉 75歳 塗箸(受領者数 911人)
- 〈敬老金〉 80歳5千円、85歳1万円、90歳1万5千円、95歳2万円、100歳及び105歳3万円(受領者数 2,335人)
- 〈ダイヤモンド婚〉祝品贈呈(受領者数 42組)

○ひとり暮らし高齢者交流会

- 70歳以上のひとり暮らし高齢者が交流できる会を開催し、孤独感を癒した。
- 〈開催日〉 平成30年11月12日(月)、13日(火)
- 〈対象者〉 70歳以上のひとり暮らしの市民
- 〈余 興〉 歌謡ショー

○高齢者記念品

- 90歳以上の方にカタログギフト(5,000円相当)を贈呈(受領者数 1,420人)

3. 総合診断

事業費	項目	単位等	H27	H28	H29	H30	R1	
直接経費	決算額	財源	一般財源	千円	30,349	29,079	30,658	33,052
			国・県支出金	千円	0	0	0	0
			その他	千円	0	0	0	0
		計(A)	千円	30,349	29,079	30,658	33,052	
	対前年比	%	-	95.8%	105.4%	107.8%		
	(当初)予算額	千円	35,834	37,263	35,773	36,911	37,176	
人件費	正職員	人	0.4	0.4	0.4	0.4		
	正職員(平均賃金)	千円	2,994	2,994	2,994	2,994		
	その他職員	人	0	0	0	0		
	その他職員(時給×時間)	千円	0	0	0	0		
	計(B)	千円	2,994	2,994	2,994	2,994		
事業費合計(C=A+B)		千円	33,343	32,073	33,652	36,046		
指標	成果指標	敬老会参加者数	目標	-	-	-	-	
			実績	4,180	3,730	3,300	3,164	
	敬老会対象者数	目標	-	-	-	-		
		実績	1,984	2,053	2,243	2,335		
	活動指標	敬老会対象者数	目標	-	-	-	-	
			実績	14,580	15,698	16,681	17,586	
	敬老会対象者数	目標	-	-	-	-		
		実績	2,071	2,160	2,367	2,350		
②事業費	受益者数(a)	人	7,740	7,467	7,251	7,319		
	受益者あたり事業費(b=C/a)	円	4,308	4,296	4,642	4,926		

診断結果	改善点は見られない	改善点が若干見られる	大いに改善すべき	○
	<p>事業費について、平成28年に、参加者に配布していた粗品(粉茶)に替えてペットボトル飲料を配布したことにより対前年度比で4%程度の事業費削減となったが、高齢者数が増加していることに伴い、その後は増加傾向にある。</p> <p>活動指標では、敬老会や敬老金の対象者数は高齢化に伴い増加傾向にある。成果指標では、実際に敬老金を受け取った方が増加傾向にあるのに対し、敬老会に参加した方は減少傾向にある。高齢化で会場へ足を運べる方が減少してきたことや、敬老金を敬老会当日に受け取りにこられなかった人に対しては自宅へ郵送するようにしたことが減少要因と考えられる。</p> <p>今後も高齢化が進み、事業費が増大していくことが想定されるため、対象者年齢の見直しや、敬老金支給額の見直しを図る。</p>			

4. 総合評価

事業の方向性	縮小	対象や手段の絞込み等により、事業のボリュームを縮小すべきもの					
削減額・対象	事務事業評価による額	一千円	予算区分	8	節	11	節
評価結果	<p>敬老金等の対象者が年々増加していくことが予想され、今後も事業費の増加が見込まれることから、事業の継続性を図るため適正な見直しを行っていく。</p> <p>敬老会の開催方法や敬老金、祝品や記念品の支給対象、支給金額等について見直しを実施していく。</p>						